

「こんにちは」から始まる国際交流



かにえ国際交流友の会

Kanie International Friendship Association

会報 No.15 (March 2008)



KIFAクリスマス会にて (2007年12月9日)

Contents

- | | | |
|--------------------------------------|-----------------|-----|
| ★ 会長のことば：藤田美保、 | ★ 蟹江町長のことば：横江淳一 | 2 |
| ★ 2007年度に実施の主な行事一覧 | | 2 |
| ★ JLFFホームステイプログラム関連：「コリーンが居た2週間」可児園子 | | 3 |
| 「A Guest from…」渡辺ネチ、「Anaさん楽しい…」吉田早苗 | | 4 |
| ★ 「弥富 桜小学校での交流会」上山まり | | 5 |
| ★ 「ミャンマーのエイズ感染児童支援施設への援助」磯部正弘 | | 6 |
| ★ 国際交流関連講演会「『虹の国』南アフリカ」を聴いて：若山高義 | | 7 |
| ★ 「初めての世界一周クルーズの経験」三輪恵美子 | | 8 |
| ★ 「ワンデーステイの受け入れ体験あれこれ」大下和男 | | 9 |
| ★ 世界の国旗、2008年度行事予定、企業・賛助会員一覧、編集後記 | | 裏表紙 |

「かにえ国際交流友の会、創立15周年」

会長 藤田美保



私達のKIFAは1993年の創立から今年で15年になります。この間、会報の充実・ウェブサイトの開設など、会の広報活動の点では明らかに改善できていると思いますが、主な年間行事等はここ何年間基本的には変わっていません。それで、

マンネリ化ではないかという批判もありますが、この期間着実に継続できたことを可とすべきでしょう。ですが、この15周年を節目として次の創立20、30周年には、KIFAとして新しい「国際交流の形」を作り上げることができたと言えるように会員皆様の協力の下、いっそうの努力を重ねたいものです。

ところで、この夏、蟹江町では中学生の「アメリカ派遣・ホームステイ」が行われますが、その後11月に予定されている関連行事に、15周年記念のイベントを協賛させていただけるということです。現在、KIFAの日本語教室には40人以上の外国人受講者がいます。それで、一つのアイデアとして「外国人による日本語のスピーチコンテスト(仮称)」を考えています。日本で生活する中で、受けたカルチャーショックとか、私達日本人に主張したいことなど、本音を語っていただければと思います。

この15周年記念行事に関して、もし皆様の中に企画についてアイデアがあればぜひお知らせ下さるようお願いいたします。

「かにえ国際交流友の会に期待する」

町長 横江淳一



KIFAの皆様におかれましては、日ごろから地域の国際交流にご尽力いただき、心から敬意を表するとともに厚くお礼申し上げます。

さて、蟹江町は今年度から新たに中学生の海外派遣交流事業を実施するほか、国際交流に関する講演会を

開催するなど、国際交流にますます力を入れてまいります。海外派遣交流事業では、アメリカ合衆国イリノイ州マリオン市への派遣を予定しており、中学生が異国の文化や言語を学び、現地の人と触れ合うことで、視野を広め国際的な感覚を身につけることを目的としております。町としても、豊富な国際交流経験をお持ちのKIFAの皆様のご協力を仰ぎながら、前進していきたいと考えております。

蟹江町や町周辺には多くの外国人のかたが住んでいます。KIFAにおかれましては、町界を越え近隣市町村の外国人の皆さんとも交流を深めるなど、地域に広く開かれた国際交流のさきがけを担っていただいております。今後も、国際交流活動のさらなる展開を期待しています。

最後になりましたが、地域の住民と外国人をつなぐパイプ的役割として、また、国際交流活動の中核として、ますます発展されますようご祈念申し上げますとともに、会員の皆さまのご健勝を心からお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

2007年度実施の主な行事一覧

開催日	行事内容
2007年 4月15日(日)	総会・パーティー(公民館分館)
5月20日(日)	知立国際交流協会のボランティアグループとの交流会
6月10日(日)	親善ボウリング大会(カニエボウル)
7月8日(日)	ルイジアナからの高校生歓迎パーティー
8月12日(日)	町民夏祭り出店(創郷公園)
10月6日(土)	町民秋祭り出店(町役場前)
7日(日)	同上
12月9日(日)	クリスマスパーティー(源才コミュニティーセンター)
2008年 2月17日(日)	国際交流関連講演会&料理(南アフリカの話と料理試食)

ルイジアナからのゲストと受け入れ家庭（6-19 July 2007）

ゲスト名	Ana Maria JACKSON	Martha LANDRY	Corinne PRIMEAUX	Neal VOSS
高校名	Episcopal	Baton Rouge Magnet	Carencro	Episcopal
学年	12th	12th	12th	12th
受け入れ家庭	吉田	渡辺	可児	薬師寺



「コリーンが居た2週間」

あっという間の2週間でした。4月に末娘も家を出て、2人暮らしになったところにやってきたコリーンは末娘と同じ年の女の子。最初の3日間くらいはよほど疲れていたのか寝てばかり。シャイで自分からは何も話しかけてこなくて、嫌いな食べ物は何も無いと言いながらいらぬものは片っ端から残すし・・・(笑)。個性的な3人の子どもたちが出て行った後の、またまた全然キャラクターの違う娘が一人増えた気分でした。



可児園子

毎日行事があり、家にいることは少なかったけれど、PCグーグルの地図でコリーンの家を探し当てたり、アメリカの若者のピアス事情を熱く語ってくれたり（ただし半分も理解できなかった）、本当に楽しませてくれました。受け入れることも結構カルチャーショックだと思わせてくれました。自分自身の忙しさもあり、嵐のような2週間でしたが、将来の幸せを願う娘がまた一人増えました。良い機会をありがとうございました。

「A Guest From Louisiana」

渡辺ネチ

Martha Landry came to our house to stay for two weeks in July 2007, a 17 year-old smart girl. It was our first time as a host family and we enjoyed to have her in our house, with our two others daughters. We took her to the montains and Nagoya castle and also to eat sushi. We gave Martha our best to feel herself at home.



And to be a host family we got to know more about JLFF s foudantion that Hattori san was involved. The relationship between Japan and Lousiana is so beutiful, and the desire for no gun in Americans home in Hattori's heart is important. They should continue and many people will make things change for sure. We are happy to have participated in this project.

(和訳) 2007年7月の2週間、我が家にマーサ・ランドリーという17歳の利発な少女がホームステイしました。初めてのホストファミリー役でしたが、二人の娘と共に喜んで引き受けました。山とか名古屋城へ行ったり、お寿司を食べに行ったり、とにかく彼女がくつろげるよう出来るだけのことをしました。

また、このホストファミリーを引き受けたことにより、服部さんが関与するJLFF(日本ルイジアナ友好基金)について、理解をより深めることができました。日本とルイジアナの関係はすばらしく、服部さんの心の中にあるアメリカの家庭から銃がなくなるという希望は大切です。これら(の運動は)は続いていくべきですし、多くの人々がものごとを確実に変えて行くことでしょう。私たちがこのJLFFのプロジェクトに参加できて嬉しいです。

「Anaさん、楽しい思い出ありがとう」

吉田早苗

Anaさんは日本語の修得にとっても熱心で、よく言葉に関するの質問を受けました。彼女が「私の帰国した後で読んで下さい。」と書き置いていった手紙には「そうめん流し」を家族や近所の人たちと楽しんだ思い出とお礼が書いてありました。彼女と過ごした2週間はよい思い出となりました。



家族との団欒



KIFA日本語教室「日本語しゃべろう会」の案内

★火曜日クラス：毎週火曜日、10:30 - 12:00

蟹江児童館(蟹江中学校の西隣り)

連絡先(担当):若山高義、TEL/0567-95-5291

★土曜日クラス：毎週土曜日、19:30 - 21:00

中央公民館

連絡先(担当):八神里美、TEL/0567-95-0307

お知り合いの外国人の方達に上記教室があることを教えてあげて下さい(もちろん無料です!!)。これらの教室では日本語講師のボランティアも募集しています。関心のある方、上記の役員までご連絡下さい。

「弥富 桜小学校児童生徒との交流会」

上山まり

みなさん ミンガラパー（こんにちは）私、上山まりです。日本にきて15年
間がたちました。本名はミヤミヤムー、
ミャンマー出身です。蟹江国際交流友
の会（KIFA）のメンバーになって11年
になり、色々なイベントに参加させて
いただいています。

2007年 夏ぐらいに KIFAの友達から
小学校へ「文化・言葉・遊び方などの交流
会に参加をしてくれませんか？」と声
かけられました。簡単に「いいですよ。」
と返事をしました。「10月10日水曜日にき
まったよ」と返事が返ってきた時には「本
当に、日本の小学校へ...」私は、1回
でもいいから子供たちと交流が出来る...
と喜び、準備に気が入りました。



お手玉の日本のものとの違いは、中身はあ
ずきじゃなくてお米だということです。7
個の長四角の小さいもので遊ぶのを選
びました。本当、外で拾った小さい石
でも遊べます。

た。国言葉、衣装や日本の遊びに似
たものでお手玉を選びました。この



10月10日に弥富桜小学校への交流へ
ドキドキしながら行きました。思った
通り 真剣な顔で、いっしょうけんめい
に話を聞いてくれて、遊びにも参加
してくれました。「上手く子供たちに
伝わったかな？」と心配しながらも無
事に交流会が終わりました。その答え
は後で、6年生の子供たちから写真
とお手紙が送られてきました。お手紙
を全部読んだ後「ミャンマーの言葉
や字をよく覚えていて伝えたいこと
があった事がちゃんと伝わっていたん
だなあ〜」と感動して涙がこぼれまし
た。

今回の交流は私の心の中に一生忘れ
ない事となりました。人生の中で1つ
の宝物にします。これからも出来るか
ぎり、いろいろな人との交流を協力
しあいながら日本で頑張っていきた
いです。今までいろいろな事ができ
るように協力してくれたお友達。弥
富桜小学校の皆様から心から感謝し
ます。



知立国際交流協会ボランティアグループとの交流会 (2007.5.20)



懇談会

協会担当課長 蟹江氏

副会長 永田久枝氏
(今交流会の責任者)



知立文化会館で開催。お互いの活
動状況など紹介し、懇談した。

終了後に会場中庭にて



終了後一緒に知立神社、
八つ橋の杜若園等見学。

無量寿寺内の八つ橋・杜若園見学



「ミャンマーのエイズ感染児童支援施設への援助」

磯部正弘

私が初めてミャンマーを訪れましたのは、1995年6月のことでした。あの頃は、観光目的の旅行者はまだ少なく、日本人も、ご年配の方ばかりで、おそらく第二次世界大戦で亡くなられた方の慰霊の為に訪れる方が多かったのではないのでしょうか。それが今では、若い女性の一人旅や、二、三人のグループ旅行も見かけるようになりました。最初の頃は、飛行機も空席が目立っていましたが、数年前からは、雨季でも満席に近い状態です。観光客はヨーロッパの人々が多く、中国や韓国・タイ等の旅行者も目立つようになりました。ビジネスで訪れる方も増えてきました。ミャンマーの人々にとっては良い事だと思いますが、まだまだ多くの国民が一日1ドル以下で暮らしています。そのような暮らしぶりの中でも、子供たちは笑顔を絶やしません。

何年前から、「かにえ国際交流友の会」の皆様からのご依頼で、ミャンマーの小学校に、図書館やトイレ：水瓶などを造るお手伝いをさせて頂いていますが、今回（2007年6月24日）はヤンゴン市内にありますHIV（エイズ）に感染している子供たちを集めて面倒を見ている施設に、皆様からお預かりしました千ドル（当時のレートで1,280,000チャット）をお届けさせて頂きました。



この施設は女医さんが中心となって運営され、多くのボランティアの人々の奉仕や寄付によって成り立っています。

私が訪れました日も十人近い学生が集まり子供たちと遊んだり、一人1,000チャットか2,000チャット（日本円で千円か二宮円）を寄付していました。今年の2月に訪れましたときは、13人の子供たちがいましたが、今回は一人増え一人が重症になり病院に入院していましたので、同じように13人でしたが、近々二人増えて15人になるとの事でした。この施設は政府の援助は一切なく、すべて人々からの寄付で成り立っています。



帰り際に女医さんから一部の子供たちが皮膚病に罹り、その治療のための薬（軟膏のような）がほしいといわれましたが、私には辞しいことはわかりませんので、どなたかアドバイスをいただきましたらと思っています。

HHHP
Happy Haven Humanitarian Project
ပျော်ရွှင်စိမ်းမြေ့ဖွဲ့ရာအထောက်အကူပြုပေးရန်
(၁) သူတို့ (၂၅၇၅) (၂) ထောက်ပံ့ရေးအဖွဲ့ဝင် အဖွဲ့ဝင် (၁၀) ဦးစွာ ဖွဲ့စည်း
(၂) အဖွဲ့ဝင်အရေအတွက် : ၅၅၇၅၀ ဝေ ၅၀၀ ၀၀၀

Receipt for Cash Receipt No. 001364
Name: KANIE KOKUSAI KOKYU TOMO NO KA
Address: JAPAN
Amount Donated: 1,280,000 / Kyats
Dated Received: 24.6.2007
Signature of Recipient

上記文中で述べられている、「エイズに感染している子供への支援団体」は「Happy Haven Humanitarian Project」です。左写真はこの団体への、今回の寄付に対する受付証です。

KIFA ポルトガル語教室へのお誘い

★★ 講師：渡邊ネチ先生、1回/月（土曜日）、中央公民館 ★★

★ 先生のクラス（第4土曜日）：午後2:00～4:00、自主勉強（月2-3回）：午後7:30～9:00 ★

会費は月 ¥3,000 程度（受講者数により多少変動）です。当クラスでは受講者を募集中です。

詳細、申し込みは担当：中西久子、TEL：0567-95-4749 まで。

国際交流関連講演会&試食会「虹の国」南アフリカを聴いて

若山高義



講師：原学さん

今年の海外交流講演会(2008.2.17)は「南アフリカ」と聞いて「えっ、すごく遠い国で何にも知らないよ～」とまず思いました。(だから、講演

会があるんだね)

本当は少し予習してから講演を聞くとよく判るんだけど、残念ながら今回もそんな立派な決意は持ち合わせていませんでした。講師の原先生は2000年から3年間、文部科学省から現地の日本



講演会場と後部の資料類

人学校に派遣され勤務されました。なんと現在は蟹江町教育委員会に勤務されています。

南アフリカは日本から13,000キロ、飛行機で17時間、やっぱり遠いんだ。面積は日本の3倍、人口は3分の1、いろんな人種があって11もの公用語があります。なんとなく解ってきました。

「最近まで人種差別があったらしくすごく遅れて



南アフリカ地図

いる国かな～」と置いていたら、石炭から石油の精製世界初やら、水道の水が世界一きれいだったり、都会での買い物も全部カードだったり、意外と(?) 発達したアフリカの大国でした。

サバンナのアフリカらしく800種類以上の鳥が



いたり、ライオンなんかには限りなく近づいて見れる公園が身近にあったりする、子供達にはとても楽しそうな国のようです。この国の古くからの民族の伝統文化を守るためと称して外来者と居住を区分したのですが、その結果として白人の利権を確保する「押し込め政策」となってしまう、その



南アフリカ料理

撤廃に80年以上もかかったそうです。マンデラさんはその運動の指導者だったんだ。よく解りました。

講演の途中でみんな待望の(?)、南アフリカ料理を3種類もいただきました。これらは先生と一緒に現地に行かれた奥様のご指導で、KIFAのスタッフらが朝から奮闘して作った力作です。とてもおいしかったです。2010年には、アフリカ初のサッカーのワールドカップが開催されることが決まっています。立派に成功するよう皆で応援しましょう。

KIFA 英会話教室へのお誘い

★★ 講師：ジョン山本先生、第2、4日曜(月2回)、中央公民館 ★★

★ クラスA:午前9:00～10:30、クラスB:午前10:30～12:00 ★

会費は月々2,000程度(受講者数により多少変動)です。当クラスでは現在、受講者を募集中です。詳細、申し込みは担当:青木猛、TEL:0567-31-1216まで。

「初めての世界一周クルーズの経験」

三輪恵美子



昨年4月4日神戸港より日本籍の“飛鳥”で約100日間北半球を一周して来ました。

図に示しました様に、先ずシンガポールに寄港し、次いでインド洋に浮かぶ美しい珊瑚礁に囲まれたモリジブへ、ここを出て

アラビア半島とアフリカ大陸に挟まれた紅海に入り、日本を離れて20日目に砂漠を突き抜ける一本の太い河、スエズ運河へ入りました。運河は平坦で特に右舷側はシナイ半島の砂漠地帯でした。一日掛け通過。アジアを後に地中海に入りました。波静かな地中海を難なく過ぎ、イベリア半島を廻り、フランスの海岸を北上、ドーバ海峡を経てイギリスへ、いよいよ波高き大西洋を6日間で横断、自由の女神の待つニューヨークへ6



飛鳥



パナマ運河

月2日に到着しました。丁度日の出で、マンハッタンのビル群が赤く浮かび上がり、いやが上にも胸が躍りました。又ハドソン河の入り口でイルカが多数出迎えてくれました。2日間滞在後船は南下、カリブ海のパナマへ、ここのバナナは美味しく、安く、もう一度パナマへ行きたい位です。6月12日パナマ運河通過、ここはスエズ運河と異なり、先ず2組の水門で水位の高い運河中央に位置する湖へ船を揚げ、又1組の水門を用いて水位の低い太平洋へ下ろします。この仕組みが面白く、とうとう一日中甲板に立ち尽くしたままでした。やっと太平洋へ出て北上、アメリカへ、ゴールデンプリッジの真下を通り、左舷にかの有名なアルカトラス島を眺め、サンフランシスコに6月21日に着きま

した。2日後出港、バンクーバーを経て、アラスカで氷河を覗、鯨、ラッコ、アザラシ、白頭鷺等多くの野生動物を船の真近に見る事が出来、雪を頂く山々、氷河の雄大さに感動の連続でした。美しい氷山や動物に別れを告げ、アリューシャン列島に沿い千島列島を南下して7月13日神戸に帰国しました。投碇した港は29、各港には1日か2日より滞在出来ませんでしたが、みな夫々の趣があり、船旅ならではの景観を細かく述べる事が出来ず残念です。

船上での約3ヶ月の生活、衣類等大変と思いましたが、気候は夏又は初夏、アラスカでは気温は下がりましたが上に着るものがあれば充分でした。船内には各階に洗濯室があり、2~3通りあれば事足りました。フォーマルドレスも組み合わせでごまかし、案外少なくて済みました。然し船内では如何様にもオシャレが出来ますし、若い頃に返り、日頃着れなかった派手な服をお召しになり楽しむことが出来ると思います。一流のホテルの暮らしとお考え下さい。船の料金は350万円位より1千万以上の6段階があります。然し船内での利用、食事に関して何らの差別はありません。食事は日本食が主で、正餐はフランス料理、然し色々変化ある食事が提供されますので、これも楽しみの一つです。3時のオヤツも饅頭等も出ますので、体重増加は避けられない運命にあります。

海が荒れる折の酔いが心配されますが、飛鳥位大きな船ですと殆んど感じません。机上のコップが滑り落ちる様な事は皆無です。医療部門も医師、看護師が常駐して居り、どんな状態でも対応



出来る様になって居ます。終日航海が続く時は様々な催物があり、ダンス、ゴルフ、水泳、碁、将棋、賭博等々飽きることはありません。

船旅は世の柵に煩わされる事なく、丸い水平線がのんびりと心ゆく迄眺められます。色々な国を見物出来る事も重要な一つの目的と思いますが、

コスタリカ入港



ゆっくりと何からも、何人からも束縛されず暮す事の出来た貴重な機会であったと思います。然し船上での付き合いが出来、自分を見つめ直そうと思った計画は、その日、その時の遊びに押し流され、あっと云う間の下船でした。再度挑戦して、生き方を考えてみたいと思っています。

「ワンデーステイの受け入れの体験あれこれ」

大下和男

3年ほど前から、ニュージーランドの青年ジェイコブの土日限定ワンデーステイを受け入れている。彼は仕事の関係で、毎年のように来日しており、K I F Aの日本語教室にも参加している。日本語も堪能で、日本の習慣もかなり理解しているが、実際に我が家にステーションしてみて不思議な思いもし、未知の体験もすることにもなった。

まず、彼が驚いたのは仏壇で、「ワオー。コレハナデスカ」。思いもよらぬ金箔のピカピカの出現だった。また、仏壇に、ご飯を供える風習にも「Why?」。この解説にはなかなか骨が折れた。ジェイコブは、縁側にあるマッサージチェアで日向ぼっこをしながら本を読むのが好き。「ジェイコブ、その分厚い本、全部英語で書いてあるの?君はよく英語できるねえ」「デモ、日本語の本は読めません」。我が家にはソファからしきものがないので、あの椅子が唯一ゆったり座って読書できるところだったかもしれない。

律儀な彼は、夜の犬の散歩にも必ず同行した。外は寒いからいいよと言っても、「ノープロブレム」とか何とか言って着いてきた。真っ暗な福田川の堤防での、英語と日本語の混在した会話は一種奇妙でもあった。「あそこの大きくてきれいな家は、いくらで買えますか?」。人さまのお宅のことなど分かるはずも無いけど、あてずっぽで応えたと聞の中でも目を白黒するのが分かった。「ニュージーランドとは地価の値段が違うからね」「チカってなんですか。地下鉄?」。

我が家は、年末に大掃除をしないとお正月が来ないという文化?が根強く残っている。折り良くジェイコブがその時期、2週続けてステーションしたことがあった。日本の文化と、「一宿一飯の恩義」を体験させるべく妻と段取りをねった。前の週は柱磨き、翌週は障子張りである。柱磨きは、背が高

い彼をお願いするのは好都合の仕事だった。脚立を使うか、目いっぱい手を伸ばして拭くところも難は無く、すいすい拭いてみせ妻を感激させていた。男の子のいない我が家には頼もしい存在にうつった。一服のときには、アイスクリームを犬にもなめさせ、その時は、頼もしい青年からやさしい少年の姿になっていた。

さて、障子張りである。まず、障子を次々に水でぬらし、紙をはぎ、たわしなどで残った糊を洗い落とす。ここでも彼の几帳面さが見て取れる。人差し指をチョコチョコ動かしながら実にきれいにペラーツとはがすのだ。そして、残った糊もこまめに落とそうとする。「ジェイコブ、もういいよ、適当で、日が暮れるから」「ナニガ、クレマスカ」。「んーん。いや、ネクスト、ネクスト」いよいよ障子を張る段。こちらは少し疲れ気味で、早く終わらせたいところ。ところが、物差しをきちんと宛て慎重に障子紙にナイフを入れている。実に根気がいい。ジェイコブは建具職人になれるかもしれない。最後、霧吹きをしておしまい。「(せっかく仕上がったのに) どうしてまた水をかけるのですか」と不可解な顔になったが、しばらくして、ビーンと張った障子を見て納得の笑み。日本の先人の知恵を伝えられたらどうか。



近所の青年と一緒に夕食の手伝い

世界の国旗：南アフリカ共和国



1994年に新しく制定された国旗である。赤色は独立のために流された血の犠牲を、黒と白は黒人と白人の平等を、緑色・黄色・青色はそれぞれ農業・鉱業・漁業の豊かさを表わしている。

2008年度の年間行事予定 (確定分)

日 時	行 事
2008年 4月13日	総会、懇親パーティー
6月8日	親善ボウリング大会
8月9日	蟹江夏まつり参加
10月11日	蟹江秋まつり参加
11月16日	創立15周年記念行事予定
12月14日	クリスマス会
2009年 2月15日	国際交流関連講演会
3月末	会報 (No.16) 発行

KIFA主催の通年教室 (講座)
日本語教室 (外国人向け)、英会話教室
ポルトガル語教室、(本文中に案内あり)

KIFAイベントボランティア募集

右記の各行事、イベント等でお手伝いして頂ける方を募ります。各役員の方まで声をかけて頂ければ幸いです。よろしくお願ひします。

ご協力ありがとうございました。引き続きご支援をお願いします。

企 業 会 員

(株) アイエス	蟹江住宅設備 (株)	(株) 鈴鋼製作所	(株) 東洋工機
----------	------------	-----------	----------

賛 助 会 員

アソピックス蟹江	宇佐美自転車商会	(株) 片桐銘木工業	甘強酒造 (株)
共同建設 (有)	(株) 鋼誠興業	西光寺	西福寺
(株) 近藤溶接	(株) 鈴鋼化成	月星歯科クリニック	日光鋳工場 (株)
松屋呉服店	丸信製粉 (株)	(有) 宮長食品	三六うどん屋
もへの寿司	山田栄子	龍照院	

KIFA ホームページ <http://kifa.web.infoseek.co.jp>

☆☆ 編 集 後 記 ☆☆

一目で発行年が区別できるよう表紙色を毎年替えています。今回の色にどんな感じをお持ちでしょうか。そろそろ会報全体のデザインも大きく変えてみたいと思うのですが.....。引き続き、会報全般 (デザイン、レイアウト等) へのコメント等をお待ちしています (ふ)。

発行：かにえ国際交流友の会

会長：藤田美保

TEL: 0567-95-9724 / 052-872-5855

E-mail: fujita@nsc.nagoya-cu.ac.jp

事務局：蟹江町役場総務部企画情報課内
〒497-8601 蟹江町学戸3丁目1番地
TEL: 0567-95-1111, FAX: 0567-95-9188